

山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

人間性豊かに生きる — 「人間性」を求める —

11

令和4年 No.1329



令和3年度 第74回山口県学校美術展 推奨作品
【炎の星ヘレッツゴー!!】

宇部市立厚東小学校 6年 (受賞時) なげやま ゆづき 永安 袖月

一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：西岡 尚



■総合的な学習の時間の充実

跡見学園女子大学 文学部

兼任講師 栗原 真洋

■地域活性化活動助成事業

下関市立本村小学校

校長 前田真奈美

6年 岩本茉理衣

6年 吉中 大典

6年 西村 朱夏

■新支部長紹介

玖北支部

支部長 田村 洋幸

熊毛支部

支部長 新田 保弘

周南徳山支部

支部長 中馬 好行

豊浦支部

支部長 白岡 勝典

萩支部

支部長 柳林 浩一

■CD「ふるさと山口わが校歌」の紹介

■乳幼児の教育・保育

学校法人慈恩学園

認定こども園 右田幼稚園

理事長 弘中 貴之

学校法人長門高等学校

認定こども園 深川幼稚園

園長 松野 育男

あなたのアクションは…

山口県教育会がすすめる
「元気やまぐち」三つのアクション

◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち

◎笑顔でつなぐ 安心やまぐち

◎ゴミ 落書きのない

美しいやまぐち

映像の演劇化を通して自己の生き方を考える学習

―箱根駅伝く中村祐二選手は、

走ることをなぜやめなかつたのか―



跡見学園女子大学 文学部

兼任講師 栗原真洋

私は、埼玉県新座市にある跡見学園女子大学で、一、二回生を対象に、教職科目「総合的な学習の時間の指導法」（以下、「講義」と記す）を担当しています。対面授業、集中講義でおこなっています。

大学の学生さんは、関東地方をはじめ全国各地から集まって来ています。受講生（以下、「彼ら」と記す）のうち七割は一回生です。彼らは、清冽でみずみずしい感性と、「教職科目って何？とりあえず受けてみようかな」というゆったりした構えをもっています。「何としても総合的な学習の時間の指導法をものにして、学校現場で生かさなくては」というような切迫感はありません。

講義では、最初に彼らに、「今、あなたたちは、高校までのあらかじめ設定（準備）された授業を受ける側から、授業を事前に設定（準備）する側（演出家Ⅱプロデューサー）へ」と立ち位置を転換する時です」ということを伝えていきます。

次に彼らに、これまで受けてきた総合的な学習の時間について語ってもらっています。

そこでは、ほぼ全員が、「農作物を作った食

べた。修学旅行の事前の調べ学習をおこなった。地域の方とともに〇〇をおこなった」というような話をしていました。「自己の生き方を考える学習」について話した人は、全くいませんでした。「ひよつとすると、これが生徒サイドから見た総合的な学習の時間の全国の現実の姿（Ⅱ縮図）なのでは」と思ったりしました。

「総合的な学習の時間のうち、自己の生き方を考える学習は、深くおこなおうとすると構想が複雑になって考えるのに時間がかかったり、準備に手間取ったりして、結局、現場ではほとんどおこなわれていないのでは？」と思ったりしました。

「映像の演劇化を通して自己の生き方を考える学習」の講義の一部を紹介します。

【箱根駅伝く山梨学院大学 中村祐二選手のプロフィール】

1966年一月二日、三年の時の箱根（第22回大会）で四区を走った中村選手は、足に突然変調をきたしてリタイアし、それまで二連覇して

いた山梨学院大学も失格しました。1997年一月二日、四年の時の最後の箱根（第33回大会）では、最長区間である二区を九位でスタートして八人抜きを演じ、区間賞を取り、一位でたすきを渡しました。

【彼らが、講義中におこなったこと】

中村選手が、1966年箱根駅伝四区を走り始めてからリタイアするまでの映像く5分間くをすべて見ました。その中で、中村選手の足が止まった9.9km、9.9km、12.5km付近で中村選手と上田監督がどんな会話を交わしたかについて一人一人考えました。それを小グループ毎に一つにまとめました。

【私が、講義でおこなったこと】く一部紹介

一 「本来であれば、会話を講義の受講者全体で一つにするために話し合い、次にそれをもとに劇の台詞を考えていくというプログラムがあるのですが、ここではおこないません」と伝えました。

二 「私が、以前おこなった授業く『9.9km付近』の児童の話し合いの様子（記録）【一】」を紹介しました。

児童J：ここは、「監督さん、大丈夫です。まだ走れます」と言うのがよいと思います。

児童K：監督さんに、「大丈夫です」とうそをついてもいいんですか。

児童J：みんなが、このたすきを待っているんです。絶対に渡したいんです。

児童K：監督さんは、「もう無理だ。やめ

- 三 「1997年」花の二区」でのシーン（ビデオ）を見せました。
- 四 「児童が書いた振り返り（記録）【一】」を紹介しました。



学習発表会 創作劇〈箱根駅伝〉

児童H：やめなさいいけないというのは、わかっていきます。でもそうすれば、たすきが途切れてしまいます。これまでいっしょうけんめい練習してきた仲間のことを考えると、「監督さん、もう無理です」とは言えないと思います。

児童P：監督さんが中村選手にさわった時にはショックでした。きっと本人は、私より何倍もショックが大きかったと思います。次の年、最後の箱根で八人抜いてきちんとたすきを渡した時、とても感動しました。たすきを渡せなかったことがあったから、必死で走り続けることができたのだと思いました。何もかもあきらめず、たとえ最後でだめになっても次があると考え、ショックに立ち向かおうという中村選手の姿には驚きました。

私は、これまでできないとすぐにあきらめていました。しかし、中村選手のおかげでこのような自分に気付いたように思います。私も自分を大きく変えられるよう、あきらめずに最後まで力を出そうと思います。

五 「児童の卒業前、中村選手から、『劇にしろもらってそのお礼が言いたいの；』という申し出があった。中村選手が三月十四日に来校されて、児童の前でリタイアした際の状況を語ってくださいました（記録）」ことを紹介しました。

六 「児童が学習発表会で発表した創作劇『箱根駅伝』（ビデオ）」を見せました。

七 「この映像は、どんな点で総合的な学習の時間の素材として適していると思えますか」と問いました。

映像は、リタイアシーンは映っていて、



来校されてその瞬間を語る中村選手

中村選手と上田監督が会話を交わしているのはわかりますが、集音マイクと二人との距離がかなりあるため音声拾えておらず、実際の会話の内容は全くわかりません。そのため、「これが正解」というものはなく、児童は、「私だったらこう言う」と、自分の意見を思う存分述べることが出来ます。これが、私が、この映像が総合的な学習の時間の素材として適しているかと判断した理由です。

【引用文献】

【一】 栗原真洋(2015)：「映像の演劇化を通して自己の生き方を考える学習」―箱根駅伝―中村祐二選手は、走ることをなぜやめなかったのか―、教材学研究、第26巻、209-218、日本教材学会。 [査読付]

平家踊りの伝統を受け継ぐ



下関市立本村小学校

校長 前田 真奈美



本村小マスコットキャラクター
へいけっ子

平家踊りの伝統を受け継ぐ活動

本校は、源平合戦最後の舞台となった壇ノ浦の近くに位置する彦島にある。地域には平家ゆかりの場所や伝説が多く残っており、太鼓や三味線の音に合わせ、十一拍という独特のリズムで踊る「平家踊り」は平家を供養する踊りとして、現在も踊り継がれている。

(1) 平家踊りを受け継ぐ子の会

「本村小平家踊りを受け継ぐ子の会」は、昭和59年度に学校、PTA、自治会で結成された。下関市内で踊り、太鼓、三味線、音頭の全てを子どもたちだけで演奏できるのは、本校のこの会だけである。現在、会員は22名。毎週木曜日の夜、地域の指導者から、実技指導を受け、技能を磨いている。

(2) 平家体験学習の実施

本校では「平家踊りを受け継ぐ子の会」だけでなく、特色ある活動として、教育課程の中にも平家体験学習を位置付け、月に1単位時間、1・2年生は踊り、3・4年生は太鼓、三味線、音頭の三部門に分かれて、地域の指導者から実技指導を受けている。

伝統継承の課題と解決策

(1) 伝統継承の危機

こうして40年近く続いてきた活動であるが、この2、3年で、存続の危機に見舞われた。一つはコロナ禍で平家踊りの発表の場である祭り等の行事が中止となっ

たことである。練習の成果を披露する機会がなくなり、児童も地域の方もモチベーションが下がってしまったのだ。二つ目は、児童数の急激な減少である。10年前と比べると本校の児童数は100名も減り、今年度から複式学級も始まった。このままではあと2、3年のうちに、子どもたちだけで演奏を続けることが不可能になってしまうのである。

そこで、危機感を感じた地域、教職員が一丸となって解決策を模索することとなった。

(2) 学校・地域連携カリキュラムをマネジメント

本校ではこれまでも「平家体験学習」を実施していたが、これを見直し、中学校区9年間の「ふるさと学習を核とした小中一貫カリキュラム」として学校・地域連携カリキュラムに位置付けたのである。これにより、これまで4年生以下の「技能の継承」を主な目的としていた学習が、今年度からは5、6年生の「伝統芸能で地域を活性化」していく学習活動へと継続・発展させることができた。

6月には6年生が総合的な学習の時間に「平家踊りで地域を盛り上げよう」と、下関駅のイベントに参加して演奏を披露したり、山口県立下関中等教育学校で、平家踊りのPR活動を行ったりして、「自分たちも地域貢献ができた」と実感を得ることができた。この経験を通して、子どもたちの自己肯定感と自己効力感



下関中等教育学校との平家交流

確かに高揚したと感じている。また、中学校に進学しても、引き続き総合的な学習の時間に「伝統芸能『平家踊り』」が位置付けられたことで、より長いスパンでの技能の継承と地域の担い手作りができるようになった。

(3) 平家踊りを受け継ぐ子の会の組織見直し

今回地域活性化活動助成事業を受けたことで、「平家踊りを受け継ぐ子の会」の組織も見直し、今年から中学生や近隣の小学校にも募集をかけることができた。会員減少で活動存続に危機感を持っていたが、一筋の希望が見えたように感じている。

おわりに

平家踊りを受け継ぐ活動は本村小だけでなく、地域の誇りであり、人々の心の支えにもなっている。それを常に心に留め、これからは伝統芸能の継承に努めていきたい。

伝統芸能「平家踊り」を盛り上げたい



下関市立本村小学校
6年 岩本 茉理衣

私が音頭を始めたきっかけは、地域の地藏祭りや、当時の6年生の歌声がとてもきれいで、私もあんな風に歌ってみたいと思ったからです。入ったばかりの頃は、高い声が上手く出なくて、とても苦戦しましたが、どんどん歌っていくうちに、上達して楽しくなっていました。時々やめたいと思うこともありましたが、友だちがいるおかげで、3年間続けることができました。

この3年間で色々な行事に参加してきて、お客さんの拍手が聞こえてきたときのやりきった感じや、過去の行事と比べて上手くできた時の達成感が楽しくて、全ての感染症が原因で、いくつか行事が中止になってしまい、練習のやりがいが無くなっていましたが、先生が優しく教えてくださったり、友だちと励まし合ったりしたおかげで、練習も手を抜かず頑張ることができました。また、新しく1年生

も入ってきてくれて、一生懸命な姿を見ると自分も下級生にかっこわるい姿を見せないように頑張ろうという思いにもなります。これからも、もっと色々な人に平家を知ってほしいので、先生方や友だちと一緒に平家を盛り上げていきたいです。



JR下関駅で演奏を披露する6年生

自分に自信をもつ



下関市立本村小学校
6年 吉中 大典

僕が太鼓を習い始めたきっかけは、平家踊りの太鼓を叩いている人を見て、「かっこいい！僕もあんな風に太鼓を叩きたい！」と思ったからです。

普段、僕が練習をする時に意識していることは、姿勢です。しっかりと膝を曲げて叩くことと、力強さを伝えるために叩く時の動きを大きくすることです。さらに、一番大切にしていることは、みんなと心をつなげて音を合わせる事です。一つでも音がずれてしまうと、全体が乱れてしまうので、集中して練習しています。

3年間、一生懸命に太鼓の練習を続けて、太鼓が上手に叩けるようになったことも嬉しかったけど、平家踊りをたくさんの人に見てもらい、地域のことを知ってもらえたことが嬉しかったです。それに、練習の積み重ねのおかげで、「自分もやればできる」と、自分に自信をもつことができるようになりました。今、僕は6年生なので悔いのないようにもっと練習して、低学年にも叩き方を伝えていきたいし、中学生になっても平家踊りを続けていきたいです。そして、平家踊りの楽しさや素晴らしい伝統を引き継いでいき、地域を超えて多くの人に広めていきたいです。



馬関まつりで演奏を披露

演奏ができる喜びや幸せ



下関市立本村小学校
6年 西村 朱夏

私が三味線を習い始めたきっかけは、前校長先生から、「三味線にチャレンジしてみない？」と声をかけていただいたからです。

日頃の練習の時は、目の前にお客さんがいると思っ

て集中ししっかりと音を出して弾くことと、正しい音を出すことを意識して練習しています。今年になって夏のイベントが再開され、幼P連全国大会オープニングセレモニーに出演し、初めて髪を結って浴衣を着た服装で演奏することができました。また、馬関まつりでは、初めての屋外での演奏で、お客さんが近くに来てびっくりしましたが、八音会の方たちの協力もあり、とても上手に演奏することができました。

平家踊りは、長い歴史の中で受け継がれてきた伝統あるものなので、下級生には、その意味も知った上で引き継いでいってほしいし、私も伝えていきたいと思っています。大きな舞台で演奏ができることは、とても嬉しいし、幸せなことなので、平家踊りをしながらそんな思いも感じてほしいと思います。そして、これからも平家踊りが引き継がれていくってくれたらいいなと思います。



平家踊りを受け継ぐ子の会の様子



幼P連全国大会出演

地域の宝を伝えたい



玖北支部
支部長 田村 洋幸

確か、本年2月頃、突然電話で前支部長から「高齢で体調も悪くなったので支部長を交代してほしい」旨の依頼があった。自分も八十路を目前にして高齢の身であり、当然ながら固辞し、5月の総会を待つことになる。

我が支部は、県内でも最小の組織で、今春から美川小学校が休校となるなど、児童・生徒数も激減している状況の中、小規模ながらも何とか組織を維持、継続しなければならぬ課題がある。そんな中、総会で正式に推挙承認され支部長の役職をお引き受けることとなった。新体制の基、組織の活性化を目標としながらも、平素のまとまった活動はなかなか困難である。しかし、個人は退職校長会や退公連、学校運営協議会などの活動を通じて、教育会の役目も行っているのが実情である。

さて、我が玖北支部は自然の豊かさは固より、歴史的、文化的にも後世に伝えたい「宝物」が沢山ある。例えば、本郷地区には、吉田松陰の実兄、杉民治の功績を讃える碑が多数あるし、松陰の愛弟子、増野徳民の墓碑なども現存している。美和地区では、文豪「芥川龍之介」の実父（新原敏三）の出身地であることは意外と知らない。本郷地区には「本郷山中人」という龍之介の謎とされている。また、2年間延期された、柳井地区の地区別教育振興フォーラム（熊毛支部開催）を、本年8月に紙上報告というかたちで実施いたしました。実践発表として「創造性豊かな児童の育成をめざして」と題して田布施町少年少女発明クラブに、「地域とともに歩む学校」く小規模校特認校としての取組」と題して平生町立佐賀小学校に発表いただきました。



「本郷山中人」の碑

た言葉の碑が、実父の菩提寺、真教寺に設置されているが、地元の人でさえ周知されていない。まして、次代を担う子どもたちに先人の素晴らしさ、このような「宝物」を伝えていくことは、我々会員の責務の一つではないだろうか。毎月「山口県教育」を手分けして配布する中で、ふと思うこの頃である。

コロナ禍の新たなスタート



熊毛支部
支部長 新田 保弘

学校や教育行政を退職後、コロナ禍ということもあり、様々な地域行事なども中止となり、教職について以降、41年ぶりにゆつたりとした時間を過ごしておりましたが、活動が徐々に開催される中、3年ぶりに熊毛支部総会が開催され、いつの間にか支部長という重責を担うことになっていました。

熊毛支部は、3町（田布施町・平生町・上関町）の連合体で、各町教育行政は、それぞれの地域に根差した独自性を持っています。その為、本支部では、3町の一体化を図りながらも、各町（分会）で具体的な活動が推進できるように、主題を「元気な地域づくりの推進」く地域ぐるみで取り組む教育支援活動」として、山口県教育会の主題解明の具現化と支部の課題解決に向けた取組を推進することとしています。

幸いにも、会員の多くの方々が教育や地域づくりにかかわる様々な組織に所属し、活躍しておられることから、会員相互の連携を図ることが、地域ぐるみでの教育支援活動の輪を広げることにもつながっています。具体的な活動は、各分会で、分会長を中心に地区委員の皆さんで話し合われています。（写真）



総会終了後の分会集會

このように、中断していた活動も、新たな方法を導入しながらも再スタートしたところ

「猪牙舟」と「ボート」



周南徳山支部
支部長 中馬 好行

昨年7月、前職退任を機に、「普通の爺に戻りたい」と宣いつつ45年間携わった教育職を退き、爾後「晴読雨読」の日々を過ごしています。

「猪牙舟」（ちよきぶね）とは、江戸時代から利用されてきた猪の牙のように舳先が細長く尖った屋根なしの小さい櫓で漕ぐ和船のこと。櫓で漕ぐわけですから常に進行方向に正対し、目標に向かって、まさに猪突猛進してきた日々であったように思います。

一転、リタイアすると船は「ボート」に変わり、漕ぎ手は進行方向に背を向け、過ぎ去る景色という過去の日々思いを馳せつつ、そこにあるのは、ただ「感謝」の気持ちのみ、本当にありがとうございます。

今、モットーは、「やらぬ善より、やる偽善」。様々な団体の皆様のお手伝いをさせていただいています。本支部では、5月21日(土)回天記念館の美化活動を実施しました。周南市大津島の回天記念館は、太平洋戦争の悲惨さを伝える貴重な施設であり、毎年、市内はもちろん県内外の小中高등학교等から多くの児童生徒が平和学習の一環として訪れています。

本館は、離島にあり、日ごろの環境美化が困難な状況にあるため、本支部の教育支援活動の一環として、山口県退職校長園長会周南徳山支部と共催で、美化活動を実施しています。

当日は、参加者14名を得て、記念館内の広場や通路の草刈り、除草などの清掃活動を実施しました。早速5月下旬から始まる、社会見学や修学旅行等での多くの児童生徒の皆さんが気持ちよく研修できるように、その一助となればうれしく思います。

とても暑い一日でしたが、疲労感よりも充実した活動ができたという満足感にあふれた会員の皆さんの爽やかな笑顔がとても印象的でした。



回天記念館の美化活動

自分にできることを無理なく



豊浦支部
支部長 白岡 勝典

退職1年後に事務局長を引き受けることになり、2年間豊浦支部のお世話をさせていただきました。豊浦支部は、豊浦町、菊川・豊田町、豊北町が2年ごとのローテーションで支部の役員を引き受ける仕組みになっています。退任後4年が経ち再び豊北町に順番が回ってきて、今度は支部長を引き受けることになりました。この6年間で豊浦支部の状況は大きく変わりました。平成28年度に271名いた会員が、令和4年度には193名と激減しています。最も大きな要因は統廃合による学校数の減少です。平成28年度に17校113名いた小学校関係の会員が、令和4年度には11校79名と減少しています。また、終身会員も高齢化による自然減に加えて新規の入会も僅かです。非常に厳しい状況が続いています。そうした状況下で、豊浦支部としての存続が憂慮され、「退職校長園長会」「退職公務員連盟」「互助会」の支部担当者が集まり、今後の各組織の連携・継続・運営等について情報交換・意見交換をしたところです。

コロナ禍ということもあって思うような活動ができません。支部としてではありませんが、個人的には高校のコミュニティ・スクール活動推進員や小学校の学校運営協議会委員として、学校と地域をつなぐお手伝いをさせていただきます。

特に地元の下関北高校の学校設定科目「地域探求」では、「環境・自然」グループを、外部講師である「北高夢ロード(高校を支援するボランティア団体)」の会員と一緒に授業支援を行っています。

少子高齢・過疎化が進み、様々な課題を抱えて憂鬱になることもありませんが、当面は自分にできることを無理なく続けていきたいと思っています。



地域探究：滑川の生物調査

タスキを繋ぐ



萩支部
支部長 柳林 浩一

平成30年3月に退職しましたが、萩市教育委員会子ども相談・支援員として勤務する傍ら、教育会萩支部の副支部長の役を務めてきました。そして、副支部長としての4年目となる昨年度の6月からは、池田廣司支部長の萩市教育長就任に伴い、支部長代行としての役割を担ってきました。そのような流れもあり、本年度より支部長を引き受けることになりました。支部長として甚だ力不足であることは承知していますが、任されたからには、これまで先輩諸氏が引き継いでこられたタスキをしっかりと繋いでいこうと思っています。

萩支部は、1年かけて令和3年度はじめに阿西支部と統合し、新しい萩支部(萩市と阿武町を含めた萩地域の支部という意味合い)として2年目となります。

萩支部の大きな強みは、旧萩支部時代から吉田松陰先生の教えと生き方に学ぶという揺らぐことのない活動の軸を持っていることです。毎年、「松陰に親しむ会」「子どもが学ぶ松陰先生」「松陰の道歩行大会」の三つの主催事業を開催し、多くの人に学びの場を提供しています。

今後も、松陰教育学を柱に据えつつ、地域の「ひと・こと・もの」という様々な教育資源の活用を図っていききたいと思っています。そのような取組の積み重ねが、子どもも大人も「人間性豊かに生きる」ことの糧となるのだと信じています。



「子どもが学ぶ松陰先生」で小学生に説明する萩高校新聞部

CD「ふるさと山口わが校歌」の紹介(*は現在閉校)



母校の温もりがよみがえる!!

～各校の児童生徒の元気な歌声を集録～

○1枚 800円(税込み) ○送料必要
○(一財)山口県教育会 制作

- ①阿東町「阿東中学校区」編(H17)
 - ◎生雲小 *蔵目喜小 ◎さくら小 *篠目小
 - *三谷小 *地福小 ◎阿東中 *篠生中
 - *地福中 *生雲中
 - ②阿東町「阿東東中学校」編(H17)
 - ◎徳佐小 *亀山小 *嘉年中 ◎阿東東中
 - *徳佐中 *嘉年中
 - ③徳地町編(H17)
 - ◎中央小 ◎島地小 ◎串小 ◎八坂小
 - *三谷小 *引谷小 ◎袖野小 *袖木小
 - ◎袖野木小 *堀中 *島地中 *串中
 - *八坂中 *袖野中
 - ④周防大島町編(H22)(情島小中は同じ校歌)
 - ◎久賀小 *椋野小 ◎三浦小 *屋代小
 - ◎明新小 ◎沖浦小 *油田小 *情島小
 - *和田小 ◎森野小 ◎城山小 ◎島中小
 - ◎浮島小 ◎安下庄小 *久賀中 *蒲野中
 - *浮島中 *沖浦中 *油田中 *情島中
 - *東和中 *日良居中 *安下庄中 ◎大島中
- ★教育会ホームページ(トップページ)→出版・販売から購入手続きができます。電話でも受け付けています。ご不明な点はお問い合わせください。
- 電話 0833-1922-10383
FAX 0833-1922-15768

遊びを通じて、生きる力の基礎を学ぶ



学校法人慈恩学園
認定こども園 右田幼稚園
理事長 弘中 貴之

いま右田幼稚園では「生きる力」の育成を中長期研究課題として、様々な取組を行っています。「生きる力」は「人生をより豊かにしていくためにどうすべきか主体的に考え出すことができる力」(学習指導要領)と定義されています。私たちは、「生きる力をもつ園児像」を、「これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動できる姿」と具体的に捉えています。

そして、その姿を構成する力の一つに「自ら学ぶ力」があります。これを短期研究課題として「体を動かすことで学ぶことが助長される」をテーマに、毎朝のサーキット運動に取り入れています。サーキット運動とは、組み合わせたいくつかの遊具を周回して体を動かす遊びですが、①身体を充分に動かし、のびのびと運動することの楽しさを味わう②多様な運動を通してさまざまな身体の動かし方を体験する③友だちとサーキット遊びに取り組み、いっしょに活動することを楽しむ、の三つをねらいとして、年齢別に取り組んでいます。特に③の友だちと一緒にの取組において、「順番は守ろうね」「前のお友だちが終わってから進もうね」

など、約束事を子どもたち同士で事前に決める。サーキット遊びのコーナーも子どもたちのアイデアを聞きながら設置するプロセスを大事にしています。



サーキット運動

この取組を長期にわたって行う効果として、先生からの一方的な知識ではなく、自ら考える力、学ぶ力を育めることを目指しています。日頃から自分たちで何をするか?を対話を通して決める機会を持つことで、各自の発達に応じた学びの土台を強化していこうと考えています。また、「やらされる」のではなく「やりたいたいことをやってみる」という考え方を日頃より意図をもって仕掛けることにより「自ら課題を発見し、自ら解決する力」の基礎につながると考えています。

「給食プロジェクト」で子どもたちの主体性を育て



学校法人長門高等学校
認定こども園 深川幼稚園
園長 松野 育男

当園は長門市東深川に位置する130名ほどの中規模の認定こども園です。

園では園児の主体性を育む取組として「給食プロジェクト」を実施しています。毎月の誕生会の献立を年長5人程のメンバーで1か月かけて企画する取組です。

ランダムに選ばれたメンバーはまず話し合ってからリーダーとチームの名前を決めます。そしてリーダーを中心にメニューを考えます。料理本をお母さんから借りてきた子、園のパソコンで旬の野菜を検索したり、本棚の絵本からヒントを探したり、意見はみんな違います。喧々諤々の議論「これ食べたい」が噴出します。

この会議に寄り添う先生は担任ではなく未満児の担任です。それは小さな子たちも食べることのできる献立にするためです。

印象に残ったエピソードをひとつ紹介します。ある日の会議で、食べたいメニューを誰も譲らなずにけんけん。決勝で負けた子が泣いて譲



給食プロジェクト

りません。すると先に負けた一人の園児が「僕も負けて悔しいけど我慢するよ。だからAちゃんも一緒に我慢しよう」と言ってきたと「うん」と言って場が収まりました。それ以降は大きくもめることはなく、スムーズに話が進みました。

今年7月のプロジェクトを紹介します。チームの名前は七夕に因んで「流れ星」。みんなで話し合った結果、メニューは「七夕そうめん、手作りハンバーガーとツナサラダ、デザートにはケーキバイキングとドリンクバー」。

誕生会の終わりに全園児の前でプレゼンテーションを行いました。献立を決めた理由や話し合いの経緯を説明しました。

誕生会が終わるとデザート作り。およそ150人分のケーキをメンバーが自らトッピングします。慎重にクリームやチョコを盛る姿はまるで一流のパティシエのようでした。給食タイムになりました。園児たちは好きなケーキを選んで教室に持ち帰りました。

プロジェクトメンバーの顔はみな「やり切った」の笑顔でいっぱいでした。これからもこのようなプロジェクトをたくさん仕掛けて子どもたちの「やりたい」「おもしろい」を育てていこうと思います。